

## 各学校の詳細まとめ（2025年5月時点）

### 大阪の事例

- **現場の状況**
  - PBSが学校文化に深く浸透。
  - 児童が「三つの大切」に基づいたキャラクターを作成（700点以上の応募）。
  - 教職員マトリックスや地域連携も実施。
  - PTAがTシャツを作成するなど、地域・保護者も巻き込んだ取り組み。
- **課題**
  - 特になし（成熟した実践）。
- **庭山先生の助言**
  - 三つの大切を軸に、生活目標や掲示物と連動。
  - 教職員間のフィードバックも実施。
  - 職員室マトリックスや誕生日メッセージなど、教員間の関係性強化も重要。
- **改善提案**
  - キャラクターや色分けで視覚的に浸透。
  - 教職員マトリックスや地域連携を導入。
  - 保護者向けに「子どもの良いところ見つけ」宿題を出すなど、家庭との連携も強化。

### 学島小学校

- **現場の状況**
  - 年間3回のキャンペーンを計画。
  - 1回目は教員主導で重点目標を設定。
  - 2回目以降は児童の意見を取り入れる方向で検討中。
  - ICT（Forms等）を活用した意見収集も視野に。
- **課題**
  - 児童の意見をどのように取り入れるかが未定。
  - 成功事例が少なく、進め方に不安。
  - 優等生的な意見に偏る懸念。
- **庭山先生の助言**
  - マトリックスの項目を○△×や3～5段階で評価。
  - Google FormsやMicrosoft Formsでアンケートを実施。
  - 子どもたちが「達成できそうな目標」を選ぶ方式が有効。
- **改善提案**
  - 1回目：教員主導で実施し、児童の反応を観察。
  - 2回目：児童アンケートを実施し、重点目標を再設定。
  - 3回目：児童会や学級会で目標を決定し、主体性を育む。

### 川島小学校

- **現場の状況**
  - 教職員・管理職ともに意欲的。
  - 提案と現場の意見が融合し、体制が整っている。
- **課題**
  - 特になし（順調に進行中）。
- **庭山先生の助言**
  - 特になし。
- **改善提案**
  - 成功事例として他校に共有。
  - 教職員の取り組みを可視化し、モデル校として活用。

## 川島中学校

- **現場の状況**
  - 推進リーダーは意欲的。
  - 管理職がPBSに消極的。
  - 10月以降に本格始動予定。
- **課題**
  - 管理職の理解・協力が得られない。
  - 教員間の共通理解が不足。
- **庭山先生の助言**
  - 管理職の価値観を理解し、PBSの意義を「翻訳」して伝える。
  - 学校経営計画とPBSの接点を見つける。
- **改善提案**
  - 管理職との個別対話を重ね、価値観の接点を探る。
  - 教員間でのポジティブフィードバック文化を育成。

## 脇町幼稚園

- **現場の状況**
  - 昨年度のキャラクターや活動を踏襲。
  - 年長児が年少児の手本となる形で進行。
  - 週ごとの目標を設定し、継続的に取り組み。
- **課題**
  - 新体制での詳細な計画は未定（ワーキングで詰める予定）。
- **庭山先生の助言**
  - 幼児が主体的に動く姿を活かす。
  - 小学校との連携を意識。
- **改善提案**
  - 年長児のリーダーシップを活かした活動設計。
  - 小学校との連携活動（例：合同あいさつ運動）を検討。

## ■ 脇町小学校

- **現場の状況**
  - 昨年度は算数授業中心、今年度は学校全体での取り組みを模索。
  - スクールガイドを活用し、全体方針を検討中。
- **課題**
  - 全体方針が未定。
- **庭山先生の助言**
  - 特になし。
- **改善提案**
  - スクールガイドを活用し、全体方針を早期に確定。
  - 校内での情報共有を強化し、全体的な取り組みに移行。

## ■ 脇町中学校

- **現場の状況**
  - 昨年度末にマトリックス完成。
  - 委員会活動と連動して活用予定。
  - 推進リーダーが継続し、スムーズな引き継ぎ。
- **課題**
  - PBSが委員会活動の代替にならないよう注意が必要。
- **庭山先生の助言**
  - PBSが「委員会任せ」にならないよう、教員の関与が重要。
- **改善提案**
  - 教員がPBSの意義を理解し、委員会活動を支援する体制を整備。

## ■ 方上小学校（旧：肩の上の実践）

- **現場の状況**
  - 月目標や委員会制度を活用し、PBSの持続可能な実践を目指す。
  - マトリックスに触れる機会が減少しているという課題意識あり。
- **課題**
  - マトリックスの存在が形骸化しつつある。
  - 教員・児童ともに「三つの大切」への意識が薄れがち。
- **庭山先生の助言**
  - 三つの大切を学校のキーワードとして浸透させることが重要。
  - 掲示物や生活目標とマトリックスを色分け・キャラクターで連動させる。
  - 教職員マトリックスやポジティブフィードバックの導入も有効。
- **改善提案**
  - 月目標を三つの大切と色分けで紐づけ、視覚的に浸透。
  - 教職員マトリックスを作成し、職員室文化をポジティブに。
  - 地域や保護者との連携を強化し、学校全体での一体感を醸成。